ZOSHIGAYA MISSIONARY MUSEUM

雑司が谷旧宣教師館だより

第2号
1996年10月 1日発行

豊島区立雑司が谷旧宣教師館
〒171 東京都豊島区雑司が谷1-25-5 ☎Fax (03)3985-4081

豊島区立 9.4.24 郷土資料館

１８８２年に来日し、第二次世界大戦勃発で帰国を余儀なくされるまでの５０年間、布教と奉仕活動に専念したアメリカ人宣教師Ｊ・Ｍ・マッケーレブとは、いったいどんな人だったのでしょうか。この旧宣教師館を建てたマッケーレブについて、探ってみましょう。

マッケーレブのプロフィール１

はじめに、マッケーレブの日本における足跡の概略を、『豊島区史』から今号と次号の２回にわたって紹介します。

（１）

豊島区地域における伝道活動は、当時、郡部一般の特徴とされていた困難さに貫かれていた。その理由の大きな一つは、郡部の教会に赴任したら「貧乏教会の牧師で自身の貯金も使い果たした後は、随分悲惨な生活」（徳富盧花『みみずのたはこと』）を強いられるため、布教活動に従事する牧師がなかなかみつかりにくく、実際大正初期まで農村の様相を呈していた郡部では、布教活動が思うように進まなかったためと考えられよう。

こうした状況にあって、明治３９（1906）年小石川表町１０９番地（現在の文京区小石川三丁目付近）から雑司が谷亀原６９番地に、学生寮雑司が谷学院が移転してきたことは、豊島区域のキリスト教布教活動をすすめる契機となった。学院経営者の宣教師マッケーレブは、明治２５（1892）年４月来日して以来、築地の居留地から本所、四谷、神田の大小の集会所に出向いて福音伝道につとめた人物で、さきの徳富盧花とも交流をもっていた。

マッケーレブ年表

1861.9.25	テネシー州ナッシュビルに生まれる 南北戦争勃発の年であった。父母ともに良心的なピューリタンであった
1875	１４歳、洗礼を受ける
1884.1	カーター・クリーク・アカデミー入学
1885.8	ヒックマン郡とウイリアムソン郡で教鞭をとる
1888　春	レキシントンのカレッジ・オブ・バイブルに入学。世界伝道の刺激を受ける
1891	デラ・ベントリー嬢と結婚
1892.3.26	サン・フランシスコを出航
1892.4.12	横浜に到着。居住制限により築地に滞在
1892.5	神田で児童を集めて慈善学校を開始 四谷学習院横で英語を教える 鮫が瀬スラムで宣教と奉仕活動を開始 デントン嬢やワイリック嬢と幼児保育活動（現雙葉保育園）
1902.9	小石川に学生寮 Tokyo Bible School 開寮　雑司が谷学院の前身となる
1907.10	雑司が谷学院開設　昼間はそれぞれの学校で学び、夜は聖書と英語の授業を必須とした 宣教師館建設
1908 ｜ 1937	数多くの宣教師が来日し、雑司が谷を基地として宣教と奉仕活動が地方にも広がった。世田谷の徳富家や立教大学初代学長元田作之進、朝倉文夫など教育家、芸術家、外交官との交際も広く、日本の近代化を目指すインテリの間で雑司が谷学院は有名になる
1923	関東大震災。米国教会の援助を得て、アンドリュース嬢や、苗村イキ嬢とともに上野、本所、深川近辺まで救助物配付。雑司が谷学院の建物一部破損 資金難で修理再建不可能
1930	土地一部売却のため宣教師館を曳家により現在の場所に移動
1939	妻デラ死亡
1941.10.22	タイヨウ丸にて離日
1943　～	ペパーダイン大学名誉教授　東洋学などを教える
1953.11.1	ロスアンゼルスにて９２歳で没

さて、明治後期から大正１０年頃迄の学院周辺は、その近辺だけ市電のレールがとどいていない、いわば陸の孤島としてのイメージそのままの地であったという。そのため地価も相対的に低く、マッケーレブは自宅を売却した資金でその雑司が谷の土地約2500坪を購入し、ここに雑司が谷学院と住宅を建設したのである。雑司が谷へ移転以前は、東京バイブルスクールと称し、エリート学生を集め、合宿制による聖書を中心とした共同体、塾生活を行っていた。

（『豊島区史』通史編二「第５章　大正デモクラシーと文化」より抜粋）

花ごよみ

西洋梨
バラ科落葉高木
高さ　15～20m
枝状　直立姓
葉形　卵形
　光沢ある緑色
果実　倒円錐形

初秋の風が、プランターに咲き乱れたマリーゴルドや、庭の木々の間を心地よく通り抜けております。

今回も、前回に引き続きマッケーレブさんがアメリカより持ってこられたといわれている、西洋梨について紹介したいと思います。

この木も樹齢９０余年で幹が甘いせいか蟻がよく群生し、二度も造園業者にセメントを詰めて治療してもらっております。今年も蟻がつき、セメント治療ではダメになるので薬で治療してもらいました。幹のなかはスカスカの状態で、そのうちに添え木をつけなくてはなりません。「あと何年も生きられない」と業者はいっております。このいたいたしい姿で今年も梨の実をいくつかつけたのですが、この間の台風で落ちてしまいました。（大変貴重な梨でした…）

この老木が倒れないうちに旧宣教師館を訪れて西洋梨の木を眺めてほしいと思います。　　（Ｙ．Ｓ）

来館者の声

毎月、旧宣教師館には約５００人から６００人の人が訪れます。アンケートやノートに、感想や思い出、またその時々の想いを記してくださる方々がいらしゃいます。

開館してから８年分の貴重な記録です。これからすこしずつ紹介していきます。同じような思い、意外な発見があるかもしれません。

今回は、夏休みの宿題にここを選んだ雑司が谷中学校のＥ君の感想の紹介します。

僕は「二年社会科夏休みの課題」を雑司が谷旧宣教師館とすることにしました。それは今年の春休みに、父と妹と僕の三人ではじめてそこを訪れた時、家の近くにこんなに静かで小鳥のさえずる、まるで別天地ような所があることを発見し、強く印象に残っていたからです。

では旧宣教師館の概要．展示物．印象に残った点感想を記します。　　（・・・中略・・・）

◆印象に残った点

今まで雑司が谷旧宣教師館のことは全く知りませんでした。宣教師といえば、安土桃山時代のフランシスコ・ザビエルだけでしたがまさか家の近くに宣教師がいて、歴史を感じさせる建物まで残っていようとは思いませんでした。

◆感想

歴史的見方からは以上に書いた通りですが、なにしろこの騒々しい街中で、まるで別世界のような所でした。庭のベンチに腰掛けて、木のテーブルに置いた缶ジュースをゆっくりと飲んだのですが、木々を通って来る木漏れ日が涼しく感じられました。

季節が変わり、白い雪の中に静かに佇む旧宣教師館．．．そんなクリスマスカードの様なメルヘンの世界が瞼に浮かんできました。

（雑司が谷中学校２年Ｅ君　南池袋在住）

【編集後記】ハナミズキに赤い実がついています。９月の台風で、落ち葉が８袋分でました。けれど高い木々に守られ、築９０年の建物は被害なし。樹木の大切さを再認識しました。（　Ｍ．Ｈ　）